

『青年会議所(JC)とは』



公益社団法人
白浜・田辺青年会議所
直前理事長
木村 陽一 様

専務理事
山田 和弘 様



青年会議所(JC)は、『明るい豊かな社会』の実現を理想とし、次の時代のリーダーとなる責任感をもった、20歳から40歳までの青年の団体です。

青年は人種、国籍、性別、職業、宗教に関係なく、自由な個人の意志により居住する各都市の青年会議所に入会できます。

60年以上の歴史をもつ日本の青年会議所運動は、めざましい発展を続けており、現在全国に714の青年会議所があり、4万人以上の会員がボランティアなどの社会活動に積極的に参加しています。また、東京には全国的運営の総合調整機関として社団法人日本青年会議所があります。さらに、110カ所の国及び地域に国際青年会議所があり、約17万人以上の会員が国際的な連携のもと活動を行っています。

公益社団法人日本青年会議所の事業目標は、『社会と人間の開発』です。その具体的事業として私たちは市民社会の一員として、市民の共感を求め、社会開発計画による日常活動を展開し、<自由>を基盤とした指導能力の開発を推し進めています。

公益社団法人 白浜・田辺青年会議所とは

1965年11月24日、県下2番目の青年会議所として、和歌山青年会議所の積極的な協力を得て誕生しました。爾来、安定への基礎作りが開始され、綿密な計画と実践を推進し、更には進歩への充実と融和を計り、やがては地域社会に密着したJC運動への展開と共にこのすばらしい組織をより一層充実したものに育成し、会員相互の人間関係が信頼と自覚の上に立ち、独自の存在価値をもち、対外的に強力に推進し、示すべく努力しています。

現在では、田辺市・白浜町・上富田町・みなべ町・すさみ町の地区より80余名のメンバーと特別会員約

310余名を擁しています。

2009年11月4日には当会議所は、法人制度改革に伴い社団法人から公益社団法人へと移行しました。設立以来「明るい豊かな社会の実現」を目指し常に公益性のある運動を行ってきた我々にとって運動の形態がなんら変わるものではありませんが、この改革を節目に、我々は改めてこのまちに真に必要とされる魅力ある組織としての誇りと責任を持って運動していく必要があります。魅力ある組織とは魅力ある人材で構成されてなければいけません。私たち一人ひとりが個人の変革なくして組織の成長はないという気概を持って積極的に自己の修練に取り組んでいます。

当会議所は1月から12月までの単年度制であります。役職、委員会メンバーの構成が毎年変わるため、大きな予算を使うメイン事業は毎年異なります。よって、地域住民の方に『JCといえば』といった継続的なメイン事業を提供することができず、がっかりさせてしまうこともあります。会のメンバーとしては色々な役職を経験できるため、各々のスキルアップに繋げる勉強ができます。

近年全国的に会員数の減少が叫ばれ、会員拡大についての取り組みが行われており、当会も近年の積極的な取り組みにより一時期に比べ会員数は安定傾向にあります。しかし、会員が40歳で卒業する組織の性質上、継続的な会員拡大は必要不可欠であり、とくに1972年生まれの間が卒業する頃から会員数の減少が加速する状態であるといえます。会の力が衰えれば地域力も衰えます。本当に自分達がJC活動に魅力を感じ、やりがいを持っているのなら必ず相手にも伝わるはずと信じ、一人が駄目でも諦めずに伝え拡大しています。そして自分たちのまちは自分達で創る。私たちの国は、私たちで護るという気概を持った仲間を一人でも多く募り育てています。JC活動を行うことによって「生涯の友」ができるとよく言われます。それは、一つの事業を組み立てる上で真剣に議論し合い、互いに切磋琢磨し、苦楽を分かちあうことによって絆が生まれるからです。私たちの限られた青年期の時間の中で出会えた友を互いに認めあい、友を尊敬し、友と共に悩み、友と共に感動を分かち合い、一生の友として志を一つに同じ道を歩んでいます。

